クラス	Q307	担当教員	中村　信次
テーマ	日常生活の素朴な疑問を科学的心理学の文脈の中で考えてみる		
著書・論文 研究課題等	著書『錯視の科学ハンドブック』分担執筆　東京大学出版会　2005 年 『視覚誘導性自己運動知覚の実験心理学』　単著　北大路書房　2006 年 論文『Additional oscillation can facilitate visually induced self-motion perception』　単著　Perception　2010 年 『色に対する潜在的態度--潜在的連合テスト(IAT)を用いた色嗜好分析の試み』　共著　日本色彩学会誌　2011 年　他 研究課題　運動知覚・空間知覚の実験心理学的分析、色嗜好（“好きな色、嫌いな色”）の発生機序の検討、方向感覚（“方向音痴”）の認知心理学的検討　等		

ゼ ミ ナ ー ル 概 要

キーワード：　科学的心理学 心理学研究法　認知・知覚　実験心理学

学習目標：①自身が日常生活で抱いている疑問、興味、関心を「科学的心理学の作法」にのっとって整理し、研究の俎上に載せることができるようになる（正しい研究計画が作成できるようになる）。

②専門演習Ⅱにおいてより良い卒業論文が作成可能となるよう、自身の興味に基づいた具体的な研究計画を作成し、予備的なデータを取得する（予備実験・予備調査）。

③意識の科学としての心理学の特徴を深く考え、心理学的な思考方法になじむ。

学習内容：研究内容は、受講生各自の興味に合わせて自ら提起してください。それをいかにして心理学専攻の学生の卒論として恥ずかしくないものにするのかがポイントです。ゼミでのグループディスカッションなどを通じて、少しずつ素朴な疑問から心理学的研究へ発展させるように指導していきます。

方法、授業計画等：
前期は輪読や論文紹介を通じて、心理学的な思考方法のトレーニングを行います。合わせてこの時期に各自の問題意識を整理し、卒論のテーマの概略を決定してもらいます。夏休みの間に、自身の卒業研究にとってキーになる先行研究を一つ見つけ出してもらう課題を出そうと考えています（受講生の希望が多ければ、卒論テーマ決定のためのゼミ合宿を実施します）。後期には、先行研究を深く読み込み、そこからの展開を考える形で卒業研究の研究計画を立案してもらいます。後期後半には予備的な実験、調査等を行い、その分析を行った上で、年度末にプレ卒論としてのレポートを提出してもらいます。

成績評価：授業参加、グループワークでのコミットメント、年度末のレポートで決定します

注意：卒論テーマは自由に設定してもらってかまいませんが（あまり指導教員＝私の研究テーマを意識する必要はありません）、少なくとも実験や調査、観察などを伴う定量的な心理学研究につながるテーマを提案していただければと思います（自分の興味を定量的な研究につなげる方法は指導できると思います）。

担当教員からのメッセージ

専門演習（＝卒業研究）は、大学 4 年間の集大成です（とくに心理の学生では）。卒論で苦労した経験は、その後の皆さんの一生の宝物になるはずです。大学 4 年間精一杯がんばったと胸が張れるように、一緒にがんばりましょう。